

項目	内容					
開講年度	2023年度					
講義コード	-					
科目ナンバー	[17]-[S]-[COM]-2 [23]-[ST]-[OFC]-1					
開講セメスター	秋セメスター					
所属学部/カリキュラムごとの履修可否・科目分野・科目名・申請可能セメスター	【2023FA開講】		履修可否	科目分野	科目名	申請可能セメスター
	学部	カリキュラム				
	APS	2017	○	APS専門教育科目	APSフィールド・スタディ	3～7
		2023	×	-	-	-
	APM	2017	○	他学部科目	APSフィールド・スタディ	3～7
2023		×	-	-	-	
ST	2023	○	ST専門教育科目	フィールド・スタディ	1～7	
プログラム名	APUグローバルリサーチプログラム(AGR)					
担当教員	轟 博志					
実習地	韓国(済州島 -チェジュ島-)					
単位数	2単位					
備考	開講言語			日本語		
	その他			-		
講義分野	-					
履修の目安	本プログラムは日本語開講であるが、現地での調査は英語(または派遣先において必要な場合、韓国語)で行うので、英語等での議論が行えることが望ましい。 APSの各学修分野のいずれかに関心を有していること。関心を有する入門授業や基礎演習等を履修していることが望ましい。					
授業概要	<p>構成:事前授業6回+現地講義・実習・中間発表+事後授業2回</p> <p>研究テーマ:韓流文化研究、韓国地理、韓国社会、韓国史、韓国政治等、韓国学全般</p> <p>本プログラムは、自らが関心を有する研究テーマについて、研究調査方法を習得するとともに、実際に派遣対象地に赴き、調査計画に基づいた調査を実施し、その結果を調査報告書にまとめるまでのプロセスを実践的に学修するものである。</p> <p>本プログラムでは、事前授業として、研究テーマの設定、調査研究計画の策定、現地調査前の事前調査に関する手法について実践を行うとともに、受講者自らが派遣地において実施する研究調査計画策定を実践的に行う。また、派遣地においては、事前授業において策定した研究調査計画を基に現地調査を実施する。</p> <p>帰国後、研究調査報告書の作成・提出及び成果報告の発表会が行われる。</p>					
到達目標	<p>以下の点を習得することを目標とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> -特定の課題について研究テーマを設定し、リサーチクエストを設定することができる。 -研究調査に必要な文献、データを取得し、分析することができる。 -現地調査に必要な事前準備を計画し、実施することができる。 -インタビュー等を通じた必要な情報やデータの取得することができる。 -調査結果を報告書としてまとめることができる。 					
授業方法	<p>【事前授業】</p> <p>リサーチ手法と調査研究報告書の作成について復習する。また、受講生自身が研究テーマを設定し、現地調査計画を作成するとともに、現地調査に必要な各種手配等を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> -研究課題の特定、リサーチクエストの設定 -調査フレームワークの策定 -文献調査、質的・量的データ分析実践 -クエストノア(質問票)作成 <p>【実習】</p> <p>受講生自らが作成した研究調査計画に沿って、現地調査を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> -現地実習中は、毎日必ず現地指導担当教員と1日の振り返りを行い、翌日の行動計画を確認する。帰着後に合同の成果発表会がある。また、現地で中間発表会や巡検、図書館実習や専門家による特講等を行う。 <p>【多文化協働学修に関する環境と手法】</p> <p>本プログラムでは、グループまたは個人による研究調査を中心とする。また、本プログラムでは、日本とは経済、政治制度、文化や宗教的背景の異なる国を訪問し、事前授業で作成した研究調査計画に基づき、現地調査を実施するものであり、多文化協働を理論的及び実践的に考察する機会を提供するものである。</p>					
毎回の授業の概要	※本シラバスに記載の时限は、すべて通常講義期間の時間です。					
	※すべて対面で実施します。オンラインでの受講は認められません。					
	【事前授業】* 毎回の授業は講義とワークショップで構成される					
	①12/20(水)5限 イントロダクション、文献研究法、「問い」「仮説」の立て方。「気づき」の得かた					
	②12/20(水)6限 文献リスト作成と課題文献の選定(ライブラリーに移動)					
	③1/10(水)5限 構造化インタビュー&アンケート実習					
	④1/10(水)6限 非構造化インタビュー実習					
⑤1/24(水)5限 研究計画発表						
⑥1/24(水)6限 現地調査計画作成						

毎回の授業の概要	【事後授業】	
	3/25(月) 1,2限 最終発表会	
	【事後レポート】	
	以下のスケジュールでMoodleより提出すること。	
	・プレゼン資料提出 締切:3/19(火)17:00	
	・最終レポート提出 締切:3/26(火)17:00	
※3月25日の合同発表会での指摘事項を踏まえ、修正のうえ、最終レポートとして提出。プレレポートからの変更箇所が分かるように作成・提出すること。		
実習スケジュール	2024/2/18(日)	Day1 プログラム開始 *21時 宿舎集合(派遣学生・引率教員)
	2024/2/19(月)	Day2 エクスカーション、振り返り①
	2024/2/20(火)	Day3 図書館実習、特講、キャンパスツアー、振り返り②
	2024/2/21(水)	Day4 現地調査、振り返り③
	2024/2/22(木)	Day5 現地調査、振り返り④
	2024/2/23(金)	Day6 中間発表、補充調査⑤
	2024/2/24(土)	Day7 プログラム終了 *宿舎チェックアウト時、解散(派遣学生・引率教員)
授業外学習(予習・復習など)の内容と分量	事前講義においては、講義時間中に実習時間を設けるが、時間内に終わらなかった部分は宿題になる。また、事前講義は派遣国に焦点を絞った実践に中心を置くので、他の通常科目で教えるような(調査研究入門、基礎演習、質的研究入門など)研究方法の基礎講義は繰り返さない。当該講義を受講していない学生は、下の参考文献等を事前に学習しておくこと。またSSAWで学習したライティングマニュアルも復習しておきましょう。	
成績評価方法	A+, A、B、C、Fの5段階評価 ・事前講義・研究計画書 40% ・現地実習・中間発表 30% ・最終発表・最終レポート 30%	
多文化協働学修の実践方法	本プログラムでは、グループまたは個人による研究調査を中心とする。また、本プログラムでは、日本とは経済、政治制度、文化や宗教的背景の異なる国を訪問し、事前授業で作成した研究調査計画に基づき、現地調査を実施するものであり、多文化協働を理論的及び実践的に考察する機会を提供するものである。	
授業担当教員の実務経験	-	
学生への要望事項	新型コロナウイルス感染症の状況、政治情勢の急変や天候等により現地実習の内容が変更となることがあります。食生活等の生活習慣や宗教的習慣が異なりますので、訪問国の文化や習慣へのリスペクトを忘れないように。その他の注意事項に関しては授業の中でも説明しますが、申請前に疑問等があれば担当教員に相談してください。	
テキスト(授業を履修する上で、購入が必須となる書物)備考	なし	
テキスト(授業を履修する上で、購入が必須となる書物)	なし	
参考文献備考	なし	
参考文献(図書、視聴覚資料) ライブラリリザーブコーナーに設置	サトウタツヤ他『質的研究法マッピング』新曜社 鈴木淳子『質問紙デザインの技法』ナカニシヤ 小田利勝『社会調査法の基礎』プレアデス出版	
参考文献(雑誌、年鑑白書等)	なし	
備考	募集人数	15
	最少実施人数	5
	派遣地域安全情報(2023年9月12日現在)	危険レベル「なし」
	参加費(目安) ※実際の費用は受講者数確定後、再度案内します。	約45,000円 [上記に含むもの] ・宿泊費 ・委託費 [上記に含まれないもの] ・航空券(学生各自手配) ・海外旅行保険、危機管理サポート費用 ・日本国内交通費 ・現地交通費 ・食費 ・VISA取得費用(必要な場合) ・予防接種費(希望者のみ)
担当教員研究室電話番号	4406	
担当教員E-mailアドレス	hstod@apu.ac.jp	
E-Book および 関連ページ	特になし	